

第15回 BELCA賞 ベストリフォーム部門 表彰物件

東京大学赤門総合研究棟

所在地：東京都文京区本郷7-3-1

竣工：1965年

改修：2003年

用途：大学（改修前後とも）

所有者：国立大学法人 東京大学

改修設計者：東京大学施設部

香山壽夫建築研究所

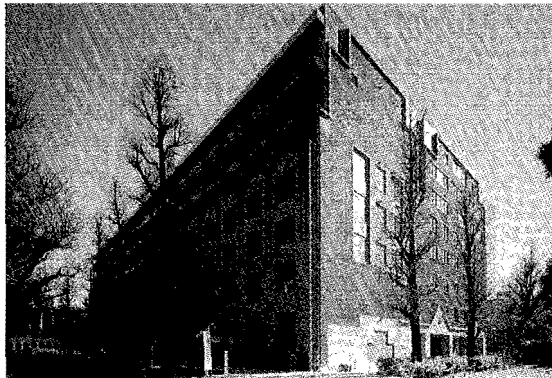
(株)佐藤総合計画

(株)日本エアコンセンター

改修施工者：大成建設(株)

オーバーシーズ・ベクテル・

インコーポレーテッド、振興電気(株)、第一工業(株)、(株)日立製作所



この建物は、1960年代の大学拡張期の本郷キャンパスにおいて建設された教育・研究施設であり、鉄筋コンクリート構造の打放し仕上げの箱型建築である。しかし、景観上重要な赤門、および戦前からキャンパスを形成してきたネオ・ゴシック様式との調和は、十分に図られたものではなかった。

1984年の増改築で、西面ファサードの細部がネオ・ゴシック様式にアレンジされ、スクラッチ・タイルにより一部修景された。

今回の改修では、20年ぶりに北面ファサードも作り変えられ、キャンパスの基調をなすネオ・ゴシック様式の細部と比例構成を、現代的に解釈し直している。既存ベランダの外側に新たに構築した耐震壁をデザインし、中間部は高さ20cm鉄骨鉄筋コンクリート壁で分節し、スケールダウンさせるとともに、スクラッチ・タイルを用いて、街並みとの統一を図っている。その上層部では、鉄骨造の補強フレームで、ピラスター（付け柱）とファイニアル（柱頭）を表現し、調和を図っている。

南面の面内補強による耐震補強は、ブレースを用いず、鉄骨格子フレームを既存躯体構面に嵌め込むもので、全く違和感がない。内部は、既存の耐力壁を生かし、雑壁を撤去し、空間のフレキシビリティを高めている。また可動間仕切りを多用し、フリースペースやオープンスペースを設け、利用形態の変化に対応できるようにしている。

設備・維持管理を考えると設備については、従来バラバラであったものを配管類の集約、機器の見直し、空調方式の変更又情報系配線等をまとめることにより、一括管理する事が出来、省エネを含め維持管理コストの低減が図られている。

LCCについても、長期的にしっかりした修繕計画が作成されており、将来長期にわたり維持保全を考えている。又維持保全体制についても、統括管理者を置き、緊急対応、保守業務の指示系統もしっかり考えられている。

露骨な耐震改修が目立つ中で、耐震補強を景観修復に用いた素晴らしい改修工事で、デザインの質の高い建物である。